

アフリカを救えーアフリカ写真展、本町で道内初開催



「100人の写真家がみたアフリカの一日」展開催のテープカット
(12月13日、文化ギャラリー)

同じ日にアフリカ各地で撮影した約250点の写真を表示して、アフリカ大陸の姿をありのままに紹介する「A Day in the Life of AFRICA (100人の写真家がみたアフリカの一日)」展が昨年12月13日から29日まで、町文化ギャラリーでありました。2002(平成14)年2月28日、世界中のフォトジャーナリスト100人がアフリカ大陸の全53カ国で、各地の1日を写真に記録しました。その24時間を写し取った写真展です。公式スポンサーとして、オリンピック(株)(東京、菊川剛社長)が撮影機材提供など全面サポート。同名写真

集(ハーバー・コリンズ出版、B4版288頁)の販売益金は、プロジェクト事務局を通じて、アフリカのエイズ教育基金に全額寄付されています。2003年の東京、神戸、韓国・ソウルを皮切りに、韓国・釜山、熊本、中国・上海、国連大学ビルUNギャラリー、万博「愛・地球博」国連館、第3回アフリカ開発会議(2003年9月)、昨年5月の第4回アフリカ会議(横浜市)など、各地で写真展を開いてきました。道内展示会は、今回初開催です。アフリカ問題に関心が高く、NPO(非営利活動法人)「CHILD

AFRICA(チャイルド・アフリカ)―(東京、長島美紀代表)を立ち上げて活動しているアーティスト、MISIAが2回に渡ってアフリカを訪問した時に撮影した29点の初の展示コーナーも同時に設け、多彩なアフリカの表情が紹介されました。期間中、同月23日には松崎稔オリパス(株)CSR課長、JICA(東京・国際協力機構)旭川デスクの石井優子さん、長島さんの3人が出席して、このプロジェクトの理念などを話すセミナーも開きました。

初のラトビア写真展、道草館で開く

昨年12月13日から同月28日まで16日間、町は道の駅・ひがしかわ道草館で「姉妹都市提携記念・ラトヴィア共和国(歌と踊りの祭典)写真展」を開きました。

昨年7月に姉妹都市提携したラトヴィア・ルーイエナ町との姉妹提携記念として初の写真展です。

独立90周年を祝って昨年7月に首都・リガで開かれた「第24回ラトヴィア歌と踊りの祭典」の時の模様を写した39点を展示しました。

「歌う国」と形容されているという同国の伝統行事です。1873(明治6)年、第1回が開かれて以来、数年に一度の祭典。民族衣装を

着た1万2千人の聖歌隊が歌うアカペラ聖歌など、バルト3国の歌と舞踏の祭りは、ユネスコの無形文化遺産にも登録されているほどです。前回の祭りから5年ぶりというにぎやかな祭りの様子を生き生きと伝える写真の数々が展示されました。

